

CONSERVATION VOLUNTEERS **3**

Vol.

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

巻頭言 **再生可能エネルギーの普及による
持続・循環型社会の実現** p1

連載 **実践的な環境保全活動の人材育成** p3
環境保全ボランティア活動と若者の自立支援 p5
人材は「育成」か「成育」か？ p6

お知らせ **ボランティア情報、事務局だよりほか** p6

巻頭言「再生可能エネルギーの普及による持続・循環型社会の実現」

—生活体験と実践結果からの提案—

重松 敏則（JCVN 理事長）

ナチュラリストや環境保全活動家は、一般に環境意識が高く、地球温暖化問題への対応やエネルギー循環型の持続共生社会の実現を人一倍望んでいることでしょう。自然保護の活動や里山・里地・里海などの保全活動、都市の緑化、環境教育活動など、多くの方々が従来から実践されている役割は大きく、上記の目標実現の道程における貢献は、未来世代にとっても貴重です。当然、自らのライフスタイルをも自己点検され、完全ではなくてもできるだけ省エネルギー型の生活を励行し、社会に対して率先垂範する役割も果たしておられることと思います。

私事になりますが、筆者が「環境保全論」と「自然環境復元論」の講義担当教授として、九州芸術工科大学（現九州大学芸術工学部）に1994年4月より就任した当初、生来の能天気な性格から、それまでの里山の植生管理をはじめとする緑地

保全分野の研究成果や、携わっていた市民参加の里山管理活動、それに恩師の「都市緑地論」の講義ノートをもとに、「環境倫理」の分担も含め、自らの知見と俄か勉強で難なく担当できる気分でした。

しかし、講義を進めるうちに果たして自分自身がどれだけ実践しているのか、後ろめたい気持ちになり、学生に対して滔々と話す自信が揺らぎました。それまでにも生ゴミや落ち葉等は全て自宅でコンポスト化して、米のとぎ汁とともに野菜づくりの肥料に活用したり、コンクリートブロック塀も一部ながらイタビカズラで緑化したりしていたのですが、とてもそれくらいでは済まない気持ちです。そこで、以前から実現したいと望んでいた太陽光発電の利用に向けて助成金を申請し、2000年1月に発電容量3.48KWのパネルを屋根に設置しました。また、2001年には200Lの

雨水タンクを設置し、菜園や鉢植えの灌水に活用するようになりました。

通勤にはバス・電車などの公共交通の利用が望ましいのですが、U字形のたいへんな遠回りでも1時間余り要するため、渋滞時間でも20分程度で行けるマイカーを利用していました。これも従来から後ろめたく感じていたのですが持病の喘息のことも考え、ハイブリッド車に乗り換えることにし、早速発注しました。順番待ちで6カ月程度かかるため、その間はレンタルの1人乗り電気自動車通勤しましたが、たいへん珍しがられ目立ったようでした。こうして2004年2月からハイブリッド車で通勤や調査に出かけるようになり、1L当たりの燃費は20~24Km(季節によって変動)と、それまでのガソリン車の2倍程度の効率となりました。さらに2004年11月には薪ストーブの設置、2005年12月には太陽熱温水器の設置を実現して、ほぼ学生の視線を気にすることなく、自信を持って講義できるようになりました。

太陽熱温水器のおかげで、その日の天候にもよりますが、5月~10月にはシャワーや炊事の給湯はほぼ賄え、ガスの使用量は半減しました。また、冬季の薪ストーブの使用により、ガスや電気の使用が減るとともに、燃える炎のゆらめきは心を癒し、見飽きることのない楽しみとなりました。さらに太陽光による自家発電では、別表に示すように年間では90~100%の自給を果たしています。もちろん、夜間や雨天の日は電力会社からの買電に頼らざるを得ませんが、4~9月は6月を除き110%以上の自給率で、日中はもっぱら売電しています。原発の停止により、7~8月は全国的に節電が要請され、九州では計画停電の施行期間になりました。このような中で、太陽光発電は夏の日中の社会が最も電力を必要とする時間帯に自家発電し、せっせと売電して電力を供給することができ、ピークカットに貢献できます。

このような再生可能エネルギー活用の普及は、原発への依存を無くし、バイオマス資源の活用を含め日本社会をエネルギー自給型の持続・循環社会に移行させることができるのは間違いありません。しかし、このような自然エネルギー利用の機器の設置には、経済的余裕が必要であり、みんなが一斉にできるものではありません。これまでの原発の設置や運用に向けられた莫大な国家予算や電力会社の資金を、早急に再生可能エネルギ

一の普及に振り向けることを願ってやみません。

生活に余裕がありながら、以上に紹介したような再生可能エネルギー利用の効果を実感できない方々が、未だ多数と考えられますが、気がついた人から、経済的余裕のある人から、率先して取り組み、参加されることによって社会は未来に向かって歯車の回転を早めることでしょう。利子がほとんどつかない銀行貯金に休眠させておくよりも、太陽光発電の設置に投資するほうが、地球温暖化防止に貢献しながら、経済的利率率からもよほど得策なのです(注1)。

地球温暖化による気象の凶暴化により、風水害等による電気、ガス、水道等の供給が止まることは人ごとではなく、いつ我が身に降りかかるかもしれない。そのような事態への備えとしても、つね日ごろから自給を考えていることも必要です。私も決して完全な実践を行えているわけではありませんが、今後、太陽光発電で充電できる電気自動車への乗り換えや、雨水の貯水量の増量などを進めたいと思っています。

1997年には277団体だった日本の森林保全活動団体が、2010年には2959団体に増加する(注2)など、日本社会は着実に参加型、持続型の社会に向けて歩を進めつつあります。気づいた人から、余裕のある人から、どんどん合流し、大きなうねりになることを期待しています。

注1：現在の1KW当たりの設置費用は、ほぼ40~50万円。一般家庭用の3.5KWだと140~175万円(国からの助成が3万5千円/KWあり、自治体によっては別途の助成があります)。我が家の年平均の月当たり買電料は6027円(最高は2月の8434円)で、売電料は9432円(最高は5月の13632円)。(3人家族・エアコンは時々使用)。

注2：平成24年度版「森林・林業白書」、pp. 79

※次ページは重松宅における太陽光発電の実績。

※本稿の執筆後、北部九州豪雨が発生し、JCVNとも関連が深い福岡県八女市黒木町をはじめ、柳川市、うきは市、熊本県阿蘇市、大分県竹田市等、各地で甚大な被害が発生しました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災した方々に心よりお見舞いを申し上げます。

「楽陽樹」太陽光発電所 発電実績

設置時期：2000年1月27日 発電容量：3.48KW

	発電量 (kw)	消費量(kw)	売電量(kw)	買電量(kw)	自給率 (%)	備考
2008年7月	396.9	289.1	282.9	175.1	137.3	家族2人
8月	305.9	249.3	225.4	168.8	122.7	
年間	3469.0	3464.5	2471.2	2366.7	100.1	
2009年7月	247.3	203.1	179.5	135.3	121.8	家族2人
8月	350.2	223.4	264.7	137.9	156.8	
年間	3358.0	3174.2	2452.9	2269.1	105.8	
2010年7月	325.0	299.0	225.0	199.0	108.7	家族3人
8月	378.3	251.4	291.6	164.7	150.5	
年間	3440.3	3754.2	2390.0	2703.9	91.6	
2011年7月	350.2	256.4	262.1	168.3	136.6	家族3人
8月	327.4	277.8	241.9	192.3	117.9	
年間	3428.3	3744.1	2439.4	2755.2	91.6	

連載

JCVN理事による経験とノウハウの詰まった連載コラム！

■実践的な環境保全活動の人材育成（3）

～福岡県八女市黒木町笠原のワークキャンプ・リーダー講座～

朝廣 和夫（JCVN 副代表・九州大学芸術工学研究院）

2012年7月14日前後、九州北部は梅雨前線による豪雨に見舞われ、熊本県阿蘇地域に始まり、福岡県の筑後地方の八女川下流域、そして中上流部の八女市の星野、上陽、黒木の笠原地域において甚大な被害が発生しました。まずは、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。この笠原地域は、本 JCVN 設立の基礎を築いた山村塾の活動地区であり、四季菜館の所在する椿原地区は地区前後の道路が崩壊し、その上流域の事務局がある「えがおの森」周辺も多大な被害を受けました。後者は、折しも雨の降る中、地域の避難所として機能し、本 JCVN の理事である小森耕太氏をはじめ、スタッフ、ワークキャンプで滞在中のボランティアは避難所の運営支援活動に携わりました。その後も、笠原復興支援ボランティア活動が毎日展開され、20～100名近くの内外的人々が、家屋に流れ込んだ泥や、埋まった水路の泥出しなどを継続されています。僥越ではありますが、地域の人々だけでなく、十数年にわたる様々な人々の環

小森 耕太（JCVN 理事） 塚本 竜也（同左）

境保全活動の蓄積が、今、役に立っていると感じます。明るい声が地元から出てくることは、今後の望みを繋ぎ、広げるのではないのでしょうか。

本稿は、「実践的な環境保全活動の人材育成」をテーマに、BTCV(英国自然環境保全トラスト、2012年よりTCVに改称)の紹介や大学における人材育成の必要性を連載してきました。今回は、八女市黒木町の笠原川上流で行われている山村塾の里山80日ワークキャンプの人材育成活動について紹介し、今回の災害復興支援に当たる人材育成のあり方について振り返りたいと思います。

この里山80日ワークキャンプは、山村塾が主催し、ボランティアの受け入れ、地域のコーディネイト、事業の実施・運営を行っています。国内外のボランティアのリクルーティングはNICEと連携し、人材育成についてはJCVN、NICE、地元等の協力を得て実施しています。例年、9月上旬に国内・海外ボランティアを受け入れ、中旬前後にリーダー講座を実施しています。これから11

月中旬ぐらいまで、様々な TASK を実施していくため、この最初の段階で、個人とチームのリーダーシップを高めることを目的としています。

プログラムは1泊2日で、2009年に実施したプログラムの見出しと時間配分を表1に示します。プログラムの特徴として、1日目は、理想のボランティア活動を考えることから始め、道具の説明法を通じてコミュニケーションの取り方、そして、課題解決ワークショップを実施している点にあります。英国、フランス、韓国、台湾、日本、各国のメンバーで合宿をはじめて1週間。私が囲んだお昼ごはんの食卓は会話も少なく静かなものでした。英仏のメンバーがいたため、講座や会話は英語。課題解決ワークの時間、英語会話に不慣れであった韓国の方が泣き出してしまいました。相互に課題を心から理解しあい、解決策を見出した瞬間となりました。2日目は、安全管理を中心に行っていますが、朝からグループフィード

バックやグループワークを盛り込み、1日をチームで活動するプロセスを体験してもらう点にも工夫が盛り込まれています。11月、良いチームになったことは言うまでもありません。

本プログラムは、僅か2日間の内容ですが、その後の保全作業や合宿生活のグループ活動において、個人が課題を背負い込まずに、チームで解決を行いながら、良い時間、良い仕事を展開する一助として機能しています。そのノウハウは、今回の被災現場においても、毎日のように異なるボランティアが入れ替わり立ち替わり活動を行う現場において役に立っているのではないのでしょうか。このことについては、もう少し状況が落ち着いてから、小森耕太氏の報告を待ちたいと思います。JCVNが、各地の団体と共同し寄与できる観点は、まさに、このような点にあると想定されます。

表—1 「リーダー養成講座 (2008/9/11~12、えがおの森)」 実施計画書 (抜粋)

第1日目		第2日目		
時間	題 目	時間	題 目	
8:30	講師打ち合わせ	7:00	食事準備、掃除	
9:00	オリエンテーション	7:30	朝食	
9:15	アイスブレイク	8:50	グループフィードバック	
9:25	理想のボランティア活動とは?	9:05	ストレッチ体操	
11:00	休憩	9:10	一日の流れ	
11:10	協働の三角形	9:50	里山保全活動を行うために	
11:40	昼食準備、昼食	10:30	休憩	
13:20	ゲーム	10:40	安全管理について	
13:40	ツールトーク (道具の説明)	11:00	リスクアセスメント (RA)	
14:00	ツールトークの実演、発表、振り返り	11:20	救急法	
14:30	休憩	11:40	昼食準備、昼食	
14:50	課題解決WS①	13:20	RA (フィールド視察)	
15:20	課題解決WS②		RA (グループワーク)	
17:00	食事の準備、入浴	RA 発表	14:35	休憩
18:30	夕食、片付け	14:45	2日間振り返り オープニングセッション、まとめ	
20:00	フリーディスカッション	16:00	終了	
22:30	寝室消灯	16:30	講師・スタッフによる振り返り	



黒木町笠原地区の被災状況



「リーダー養成講座」の様子

■環境保全ボランティア活動と若者の自立支援（3）

～若者自立支援団体を利用する、若者たちと活動するコツ～

塚本 竜也（JCVN 理事・特定非営利活動法人トチギ環境未来基地理事長）

若者自立支援団体を利用する若者には様々な背景を持った若者がいます。小中学校でいじめを受けて学校にいけなくなりその後、社会との接点を失った者、仕事に就いたけれど自信を喪失して動けなくなった者、家庭環境に課題を抱えている者、発達障がい疑いのある者など、様々です。特に人間関係やコミュニケーションに不安を抱えている若者が多くいます。

しかし、これまでも書いてきましたように、「機会と環境」を整えればできることがたくさんある若者達です。彼らの力を社会に活かし、活動を通じて彼らの力を育むことはとても大切なことです。では、機会と環境をどのように整えていくか。重要な点をまとめてみたいと思います。

① 雰囲気作り

コーディネーターの腕の見せ所です。話したそう、話しかけてほしくなさそうの見極めや、ゆっくりでも、失敗しても大丈夫という安心感の醸成、人と人の適度な距離感などをいかに現場でつくれるかがカギです。休憩時間もグループづくりに重要な時間です。

② 分かりやすく伝える

作業の意義や内容をしっかりと伝えることも大事です。しかし、口頭の説明だけだと十分に理



解のできない若者もいるので、写真やイラストを使った資料を配布するなどは効果的です。また、作業の内容等は始める前に実際にやるところを見てもらい、やり方を理解してもらうまでスタッフが一緒にやるなども必要です。

③ 作業を小分けにする

体力の著しく低下している者や、道具を使ったことが全くない若者達もいます。せっかく作業に参加してくれても、「やっぱりできなかった・・・」と感じて帰るのではマイナスです。誰もがができる作業があるように、できる限り小さな作業に必要な作業を分け、分担していくことが大事です。その時に、大小関係なくどの作業も重要な作業なの

だということを、しっかり伝えておくことがポイントです。そして、作業を進めるのはゆっくりでも丁寧にが基本です。

作業がなかなか進まない時など、スタッフ側の

忍耐を要求される時もあります。しかし、他のボランティア活動と同じですが、集まったメンバーといいい作業ができた時の充実感はいいものです。「Nature for all」、「Forest for all」を引き続き、若者達と続けていきたいと思っています。

■人材は「育成」か「成育」か？（3）

平 由以子（JCYN 理事・特定非営利活動法人循環生活研究所事務局長）

堆肥も畑も組織も生き物。

今年もコンポストアドバイザー養成・支援講座を開催しました。毎年定員 10 名に対し全国から応募があります。2 日間のみっちり座学（基礎・専攻）とコミュニケーション、リーダー講座を終了すると、実践講座がはじまります。この全体をサポートするのがトレーナーです。トレーナーは九州、中部、離島に点在、炭焼き職人、食の達人、まちづくりや子ども活動する人などさまざま。年に 2 回集う会議では各地域での近況報告、カリキュラムの見直し、基材研究やマネジメントについて主に話し合われます。ほとんどの課題の場合基本に戻ることに徹しています。こうして徐々に時間をかけて骨太に構築されて行きます。

実践講座になると、受講生の地域に入って現場でサポートするため、地域の人とどうやってコミュニケーションをとり、どうやって活動の根を張っていくのかを一緒に体感、方言をはじめ地域の特性やリズムが伝わります。ここでアドバイザーや地域、その変容に学ばせてもらうこととなります。トレーナー自身が現場で回帰するわけです。

極めて都合のいい解釈ではあるけれど「全体が

うまくいっているな」そう思ったとたん、いつも新たな課題がふりかかり、そうではないことを知ります。「堆肥も畑も組織も生き物」というのがこのごろの実感であり、笑いながら嘆いていることもしばしば。人材育成とはそんなものかもしれない。



講座を見守るトレーナー

お知らせ

イベント情報やボランティア情報、事務局だよりほか

●ボランティア情報

黒木町笠原 災害ボランティア募集！
7/22（日）からしばらくは毎日実施。

山村塾では、7/14の豪雨災害による被害を受けた住民、農家への支援を行う災害ボランティアを募集しています。

◆とき 7/22（日）から活動開始。
※雨天時や運営体制が整わないときは中止することがあります。

◆集合 9：00に八女市黒木総合支所の駐車場
（八女市黒木町今1314-1）

◆スケジュール

- 9:00 八女市黒木総合支所駐車場に集合
 笠原地区へ(約40分)
 現地ミーティング
 10:00~12:00 作業
 13:00~15:00 作業
 15:00 片付け、ミーティング
 八女市黒木総合支所へ移動
 16:30 解散
 ※天候や状況により変更することがあります。

◆主な活動内容

- ・家屋内外の片付け、荷物やゴミの運搬
 - ・泥、石のかき出し、運び出し
 - ・清掃や泥落とし作業
- などを一人暮らし、高齢者宅を優先して行います。また、進捗度合いにより、田畑や水路の復旧作業も検討しています。活動初期は、笠原の最奥部である鹿子尾地区を行い、順次エリアを拡大したいと考えております。
- 7/23(月)からは
- ・避難所「えがおの森」のお手伝い
 - ・避難されている方との交流、お話しなどを行ってくれる方も募集します！屋外作業が苦手な方もご参加お待ちしております！

◆募集対象

- ・日帰り可能な方。
- ・高校生以上(高校生は学校および保護者の同意(書)が必要です)。
- ・個人行動を慎み、活動上のルール、マナーにご協力いただける方。
- ・グループでの参加も歓迎します。

◆持ち物

活動ができる汚れてもよい服装(長袖、長ズボン)、長靴(必須)、保険証、飲み物(2ℓ以上)、弁当、タオル、帽子(又はヘルメット)、防塵マスク、厚手のゴム手袋
 着替えがあると便利です。

◆申し込み方法

- 1) 氏名 2) 年齢 3) 住所
- 4) 電話番号 5) 携帯電話(あれば)
- 6) 参加希望日

- 7) ボランティア活動保険(加入している・していない)
- 8) 所属やグループ(あれば)
- 9) 活動内容の希望(あれば)

◆連絡先・申込先

山村塾 事務局長 小森耕太
 〒834-1222 八女市黒木町笠原9836-1
 えがおの森内
 メール: sannsonn@f2.dion.ne.jp
 山村塾事務局携帯
 080-8562-4558
 または小森携帯
 090-4775-3928
 メール sannsonn@f2.dion.ne.jp

※笠原地区の近況は下記をご参照ください。

<https://www.facebook.com/kouta.komori>

※山村塾は1994年に黒木町笠原で発足し、棚田や森林の保全活動に取り組んできたボランティア団体です。山村塾HP:

<http://www.h3.dion.ne.jp/~sannsonn/>

◆主催 山村塾

※八女市社会福祉協議会に団体登録を行い、ボランティア活動保険に加入します。

◆備考

- ・笠原は基幹道路が寸断したため、一般車輛の通行が困難な箇所があります。現地へは乗り合いまたはスタッフの用意した車輛に同乗していただきます。
- ・雨天時は中止することがあります。
- ・民間による運営、送迎を予定しているため受入可能な人数に限りがあります。何卒ご了承下さい。ご不明な点はお問い合わせ下さい。

福岡県内のボランティアセンター等

北部九州豪雨を受け、各地の社会福祉協議会等により設置された災害ボランティアセンターの多くは、活動が一段落し、閉所・縮小しています。

平成24年8月10日現在で、福岡県内でボランティアの募集を行っているのは八女市災害ボランティアセンターとなります。詳しくは下記までお問い合わせください。

**八女市社会福祉協議会立花支所
災害ボランティアセンター**

八女市立花町谷川1156番地
電話 ①0943-33-8557
②090-6893-5701
ファクス 0943-37-0083
受付時間 9:00~17:00

八女市社会福祉協議会星野支所

八女市星野村10775-14
総合保健福祉センター（そよかぜ）
TEL 0943-52-3165
ホームページ <http://yamesyakyu.jp/>

●書籍の紹介

「よみがえれ里山・里地・里海」築地書館
重松 敏則+JCVN編 価格：¥3,780

これからの持続循環型社会、生物多様な環境を維持するのに欠かすことのできない里山、里地、里海、川をどのように保全し、利用するべきか。日本の里山、里地の変化を詳しく追ひ、今後の展望を切り拓く。JCVN理事らを中心に分担執筆した事例豊富な一冊です。

●事務局だより 志賀 壮史（JCVN事務局）

これまで事務局を担当していた浅田さんの体調不良で、一時、事務局を代行することになりました。よろしくお願ひいたします。

今回の北部九州豪雨では、大分県竹田市でも大きな被害がありました。いち早くボランティアセンターを立ち上げ、その中心となって活躍している竹田市社会福祉協議会の水野匡也（みずの・まさなり）さんに、お話を伺いました。

お伺ひしたのは平成24年7月30日（月）。被災初期の活動が一段落し、ボランティアセンターを現場そばの竹田市総合運動公園から竹田市社会福祉協議会に引っ越しさせている最中でした。

志賀：ひとまずお疲れ様でした。これまでの取り組みはいかがでしたか？

水野：早めにボランティアセンターを立ち上げられたので、大分からもボラバスなどで、大勢の方に来ていただけました。被災して1、2週間が勝負なので、この点はよかったです。

ボランティアセンターには様々な力や設備・機材等が必要になります。自分たちでできればいい



河川近くの被害のあった地区（竹田市拝田原）

けれど、実際は難しく、助けを借りるしかありません。いろんな方面の知人に連絡して「携帯を20台、車載無線機、ルーター3、4台貸してもらえん？」等、当初はまるで借り物競走のような雰囲気もありました。日頃、会議や講演会などで会って、話してきたつながりが役立ちました。

志賀：ボランティアの皆さんの安全管理は？

水野：私たちがリスクマネジメントまでできれば良いのですが、なかなかそうもいきません。今回は、宮城県石巻市からNPOの方にご協力いただいて、約1ヶ月間滞在してもらっています。ボランティアの班に一人ずつ付いて活動していただきました。

志賀：どんな苦勞がありましたか？

水野：水害は、被害にあった所とあわなかったところがはっきり分かれること、そして、住民の意識も、すぐそばなのに関心が薄い人もいるといったところが難しい点です。しかし、この点は継続して地域に関わることができる各地の社会福祉協議会がボランティアセンターを設置する意義でもあると考えています。

志賀：いろんな方の協力や支援をいただきながら、それらをつなぐ役割を果たす社会福祉協議会や水野さんの活躍がわかりました。お忙しい中、ありがとうございました。

CONSERVATION VOLUNTEERS 3

■発行日：平成24年8月10日

■発行頻度：年4回

■発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

■事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202
tel/fax: 092-215-3966
e-mail: jcvn@greencity-f.org